



2013年度聖句

「喜ぶ人と共に喜び、
泣く人と共に泣きなさい。」

(ローマの信徒への手紙 第12章15節)

facebookページ開設中! 『いいね!』を押してください。

クリスマスツリーの前で和泉クリスチャン・フェローシップの学生

izumi NEWS Vol.19

和泉短期大学 広報渉外ユニット

発行責任者 理事長 深町 正信

〒252-5222 神奈川県相模原市中央区青葉2-2-1

TEL.042-754-1133 (代表)

URL.http://www.izumi-c.ac.jp

— 目 次 — C O N T E N T S

特集 学生のより良い学びを支えるための本学の取組み …… 2

izumi TOPIC

- 全国私立短期大学体育大会結果 …… 3
- 夏期休業期間中の改修工事完了 …… 4
- 私の好きな聖句 …… 5
- 「教育環境充実資金」募金のお礼とお願い …… 6

学生のより良い学びを支えるための 本学の取組み



教務部長・教授 鈴木 敏彦

現在、保育・福祉を取り巻く状況は大きく変化しています。他方で、大学教育に対する社会の期待も変わりつつあります。こうした大きな変革の時代に、和泉の教育をどのように考えるべきか。ここでは、本学児童福祉学科を中心に述べていきます。

◇和泉での学びのパス（道のり）◇

本学では、学びの成果として、学生一人ひとりが①キリストの愛の教えを基盤とし、保育・福祉専門職として人権を尊重する人、②さまざまな世代の人々とコミュニケーションがとれる人、③世界の出来事に目を向け、自ら積極的に考え、学び、行動する人となることを標榜しています。こうした人物像への成長は、本学在学中のみならず、下図のように、入試～入学前教育～在学中～卒業後に至るまで、長い時間をかけて保育・福祉専門職としての成長が期待されます。



本学における保育・福祉専門職養成は、「こころ」のない専門職を機械的に養成するものではありません。私は、専門職である前に、ひとりの「市民」あるいは「社会人」として、「自立（自律）」した存在となることが大切だと考えています。その意味では、長期間にわたっての「専門職としての成長」、「人間としての成長」を併せて考える必要があります。すなわち、保育に関心を寄せ・自らの将来を真摯に考える高校生を「（オープンキャンパス）・入試・入学前教育」で支援する時期から、保育・福祉専門職としての学びを本格的に行う「和泉での2年間」、そして現場というスタート地点に立った卒業生のキャリアパス形成を支える「卒業後教育」に至るまで、和泉は一人ひとりの学生の成長に、その伴走者として関わり続けることを大切にしています。

◇和泉での学びのデザイン◇

児童福祉学科の学びの特徴は、学びのすべてが、保育・福祉専門職に求められる資質やコンピテンシー^{※1}等をもとに構成されている点にあります。本学のカリキュラムは、国の指定する保育士・幼稚園教諭養成のカリキュラムをベースとしていますが、さらなる充実を図るため「保育者としての資質向上研修俯瞰図」（日本私立幼稚園幼児教育研究機構）を活用し、2年間の学びにおける科目の効果的配置、教授内容の精査等を行っています。また、本学の教員の多くは、保育・幼児教育・福祉の現場に強い関わりをもっていますので、「理論と実践の調和」を意識した教育が展開されています。

さて、学校教育法によると短期大学の目的は「深く専門の学芸を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力を育成すること」（第108条）とありますが、これは単に職業に就くための知識や技術を教えればよいということではありません。法のいう「職業又は實際生活に必要な能力」には、知識・技術のみならず、専門職として知識・技術を活用して仕事を進めていくための「価値や倫理」も含まれると考えるべきです。価値や倫理という堅苦しく聞こえてしまいますが、「人間をどう見るか」「社会をどうとらえるのか」といった人間観や社会観に基づき、その上で自らが果たさなければならない専門職としてのミッション（使命）をどう考えるかといった事柄です。この点については、本学はキリストの愛の教えを基盤とするキリスト教主義学校であり、一人ひとりの学生の、専門職としての価値・倫理の形成に大きな力となっていると考えます。

◇教育力の向上に向けた取組み◇

学生一人ひとりが専門職としての学びを充実したものとしていくために、本学では教育力向上に向けたいくつかの具体的な取組みをはじめています。第一に「学びの環境の改善」です。ここでは、①高校から大学へと学びのスタイルの変化に対応した「授業単位の少人数化」、②学生からの授業評価に加え、教員同士で授業のあり方を学びあう場としての「教員による授業参観制度の導入」、③学生の学びの興味・関心を踏まえ、授業を各論から総論へと展開する「授業配当学年の再検討」が挙げられます。

第二に、「現場主義・実学教育の重視」です。この点としては、①学内での学びを早期に現場で実践し、また現場での学びと理論を結びつけるための「実習時期の前倒し」、②保育・幼児教育関係団体との連携（産学連携）のなかで行われる「正課の実習以外での現場体験」、③実学を支える学内組織「キャリアデザインセンター」「実習・ボランティアセンター」等の取組みが挙げられます。なお、今日の現場主義・実学教育の推進には、従来より、先進的取組として多くの補助を文部科学省から選定されたことも大きな原動力となりました（直近では、平成24年度より文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改革・充実体制整備事業」の採択を受けました）。

◇おわりに◇

以上のように、学生の学びをより良いものとするための取組みを進めていく一方、大学が留意しなければならない点もあるように思われます。第一に「和泉の次は社会人である」ということです。大学のさまざまな取組みが「学生の主体的な取組みを促す」という視点で行われなければ、単なる過保護に過ぎず、受動的・依存的な専門職を作り上げかねません。学生が和泉を卒業した先に専門職・職業人として出会う「社会」では、日々、自身の能動的な取組みが求められます。大学においては、学生の一人ひとりの「エンパワメント」を高めていく視点で、すべての教職員が協働していくことが肝要です。

第二に「育てられるものから育てる者への転換」です。「育てられるものから育てる者へ」とは、発達心理学研究者・鯨岡峻先生による「関係発達」に関する有名な言葉です。私は、この「転換」の象徴的な場こそが保育・福祉専門職の養成校であり、「大学教員 - 学生」の関係性をしっかりと考えていく必要があります。私は、「（適切に）育てられた体験」がある者が、「育てる者」へと自らの転換を果たせるのではないかと考えます。

和泉短期大学は、社会の変化に対応しつつも、大学として大切にしなければならないものを堅持する姿勢を持ちながら、保育・幼児教育の大転換の時代の中、それを「混迷」ではなく新しい保育の姿・保育者養成のあり方を提案できる大学を目指して力を尽くしてまいります。

※1 コンピテンシー：単なる知識や技能だけではなく、技能や態度を含む様々な心理的・社会的なリソースを活用して、特定の文脈の中で複雑な要求（課題）に対応することができる力

第48回全国私立短期大学体育大会 結果報告

8月5日（月）～8日（木）に開催された、第48回全国私立短期大学体育大会において、本学からは男子硬式テニス（初出場）、男子バドミントン（2回目）、女子バドミントン（2回目）、女子バレーボール（3回目）、女子バスケットボール（5回目）、男子バスケットボール（4回目）の各競技に出場しました。

●バドミントン男子シングルス準優勝、ダブルス初出場（於：小田原アリーナ）

バドミントン男子シングルスに坂部俊太君（児童福祉学科2年）が出場しました。坂部君は激戦を勝ち抜いて、昨年の3位を超える準優勝となりました。試合の結果は以下のとおりです。

1 回 戦	—	シード
2 回 戦	vs修文大学短期大学部	2-0 勝利
3 回 戦	vs産業技術短期大学	2-0 勝利
準 決 勝	vs佐久大学短期大学部	2-0 勝利
決 勝	vs湘北短期大学	1-2 敗退



男子ダブルスには2年生ペアが出場。4月からペアを組み、初めての試合でした。善戦しましたが及ばず、初戦敗退となりました。

●バドミントン女子シングルス健闘、1年生ベスト16（於：小田原アリーナ）

バドミントン女子はシングルスに1・2年生各1名が出場しました。それぞれ初戦を突破し善戦しました。1年生は2回戦を勝利しベスト16、2年生は2回戦の突破はなりませんでした。

タイの保育・福祉を学ぶ

教授 櫻井 奈津子

今年度の「インターナショナル・フィールドワーク」は、1年生8名、2年生7名、専攻科生1名の合計16名が参加し、タイの幼稚園2カ所・児童養護施設・障がい児施設への見学訪問、王宮周辺の観光という研修旅行を8月27日～31日の4泊5日で行いました。

研修初日は、緑豊かな環境を活かしシュタイナー教育を実践する幼稚園と、児童養護施設の園内学校を見学しました。幼稚園では木々の生い茂る園庭、活動中の子ども達の様子を自由に見学させていただき、学校ではホームに戻る前の子ども達に、私達からパネルシアターと手遊びを披露しました。

翌日は幼稚園と、国立の障がい児入所施設を見学しました。幼稚園では子ども達の舞踏で歓迎され、園内を見学した後に、パネルシアターと手遊びを子ども達と一緒に楽しみました。先生方が折り紙に関心を寄せられ、簡単な折り方をお伝えしました。障がい児施設では、午睡用簡易ベッドに寝ている子ども達と対面しました。「自由に関わって」と促され、戸惑いながらも触れたり声をかけてみたりしたところ、子ども達は声を上げ手足を動かして応えてくれ、私達の緊張も一気に吹き飛びました。訪問先での子ども達のキラキラした笑顔、先生や職員のみなさんの穏やかな笑顔が印象的でした。何よりも、全員が体調を崩すことも事故もなく、無事に帰国できたことを感謝します。



参加学生の声

市成 翔子（2年 神奈川県立弥栄高等学校出身）

鈴木 朝子（2年 光明学園相模原高等学校出身）

初めての海外で、出発前はとても緊張していました。日本とは違う言語や文化を持つ国での滞在に少し不安もありましたが、現地に到着し、緊張と不安はすくなくなりました。

視察で訪問したのは、日本人の方が経営する幼稚園、女の子だけの児童養護施設、障がい児入所施設、そして現地の幼稚園です。どの施設でも温かく迎え入れて頂きましたが、特に現地の幼稚園では、この日のために練習したタイ舞踏を子どもが披露してくれたり、伝統的なお菓子を振舞っていただいたりと、心のこもったおもてなしを受けました。視察のために多くの時間をとっていただき、遊ぶ姿や学ぶ姿など、生活する子どもの姿を沢山観る事が出来ました。

今でも出会った子ども達の笑顔を思い出します。さらさらと輝いた笑顔に沢山の元気を分けてもらいました。私たちも人を笑顔に出来るような存在になりたいと思います。

就職説明会開催

学生部長・教授 佐藤 守男

毎年行われている「就職説明会」が今年度も7月29日（月）5時限のキャリアデザインBの授業の中で2年生を対象に行われました。

内容は「相模原市幼稚園協会」「相模原市保育連絡協議会」「専攻科介護福祉専攻」の3種類の講座を設け、学生はその中から2つを選んで受講しました。

講師は、相模原市幼稚園協会会長の金子英行先生、同協会経営管理部長の八木肇先生、相模原市保育連絡協議会会長の鈴木源二先生の他3名の方に担当していただきました。

学生たちの関心が高く有意義な説明会になりました。



夏期休業期間中の改修工事完了のご報告

夏期休業期間中(2013年7月31日(水)～9月2日(月))における施設・設備の改修工事が無事完了いたしました。ご協力ありがとうございました。

1号館

- 2階206教室(大教室)改修工事
 - ミュージックラボラトリー(ML)、電子オルガン26台を設置して最新のMLシステムを導入いたしました。
 - 大会議室(40人分の机、椅子、プロジェクター、スクリーンを設置)
- 正面玄関出入り口改修工事
- 1階小児栄養実習室の授業環境を良くするために、LED照明器具への取替工事
- 電源回路増設工事(小児栄養実習室、保健室)

2号館(研究棟)

- 地下1階旧学友会室等改修工事
 - 専攻科介護福祉専攻 入浴実習室、介護実習室、和室実習室に改修しました。

3号館

- 和泉クラーク・ホール高窓電動排煙オペレーター修理工事
- 学生食堂厨房床防水塗装改修工事

2号館介護実習室他開設式

2013年10月2日(水)、2号館介護実習室にて開設式を教職員、学生とともに行いました。

2010年4月専攻科介護福祉専攻開設から3年6ヶ月、すべての施設の短期大学への移設が完了し、ここに介護実習室、入浴実習室、和室実習室の開設式を迎えることが出来ました。

参加学生の声:「明るくてきれい、畳の新しい香りがする」と専攻科の在学生在が後期の授業を楽しみにしておりました。

●面積

介護実習室	66㎡
入浴実習室	37.125㎡
和室実習室	37.125㎡



大会議室開設式

2013年9月4日(水)、大会議室開設式を教職員、学生とともに行いました。従来まで使用していた会議室が64㎡で、教授会や高等学校の先生を招いての研究会には狭かったため、206教室を、夏期休業期間中に改修工事を行い、大会議室(140.86㎡)が完成しました。今後は、この大会議室を教授会、各種委員会、高等学校教員との研究会、実習懇談会等で有効活用していきます。

参加学生の声:「新しいにおい、206教室であったことを忘れてしまうくらいさ」



ミュージックラボラトリー開設式

2013年9月25日(水)、ミュージックラボラトリー開設式を行いました。構想から15年、遂に念願のミュージックラボラトリーの開設式を迎えることが出来ました。

2014年度からは正規の保育者養成指定施設の教科目として、従来までのピアノ個人レッスンに加え、このミュージックラボラトリーシステムを利用することになります。ミュージックラボラトリー(収容人員26名、広さ148㎡)は学生の音楽環境を一層充実していくために、教員用電子ピアノ(親機)と学生用電子ピアノ 25台をケーブルで接続することにより、集団の鍵盤学習を効率的に行い、教員と学生一人ひとりがヘッドフォンとマイクを通して「マン・ツウ・マン」でコミュニケーションできる音楽教育システムです。

※2012年度から本学の「教育環境充実資金」としてお願いしている募金対象事業です。ご協力に感謝いたします。

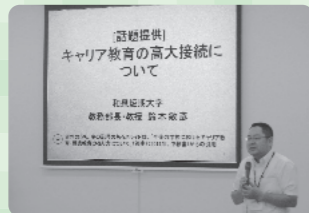


第5回(2013年度)市内高等学校との教育研究会を開催しました

2013年9月11日(水)、相模原市内10校の高等学校から校長先生、副校長先生など先生方にご参加をいただき、第5回教育研究会を開催いたしました。

鈴木敏彦教授・教務部長より「キャリア教育の高大接続について」の話題提供がされ、その後に意見交換が行われました。

各高等学校の先生方からいただきましたご意見などを参考として、地域に根ざした短期大学として、今後とも市内高等学校との連携強化に力を注いでいく所存です。



芋掘りとフルーツの収穫が行われました

2013年11月1日(金)、1年生が「にこにこベジタブルランド(農園)」で収穫。鈴木真次郎先生による保育内容「環境」の授業では、さつま芋の栽培を行っています。5月にさつま芋の苗を植え、猛暑が続いた夏、水撒きや雑草取り等、愛情込めてさつま芋を育てました。長く伸びた蔓を引っ張り、辿っていくと土の中から大きく立派に成長したさつま芋が顔を出しました。また、畑の隣の果樹園では、ミカンや柿がたくさん実りました。

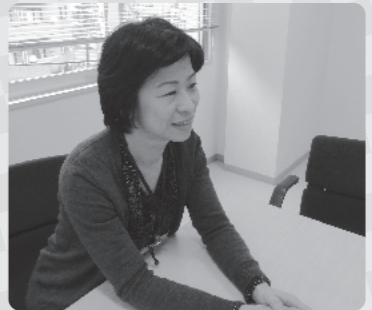


活躍する卒業生

PART VII

横浜市中央児童相談所(社会福祉士)

坂本 民代



両親が共働きだった私は、小さい頃より地域や社会の方々とのつながりや関わりの中で成長し、色々な経験を重ねてきたという役割が果たせたらと考えることが社会福祉の道に進むきっかけでした。

社会人となって最初に救護施設(生活保護法に基づく保護施設)に勤め、様々な障害や病気、困難な問題を持つ方の生活を身近に感じました。地域社会において生活を送る上で、福祉サービスや制度を利用することで外出の機会や活動の幅が広がり、時には問題解決につながるということを実感し、その人らしく生きることを社会で支え合うことの大切さを感じてきました。その後、幅広く地域の福祉に携わり多くの知識を身につけていきたいと思います。

1994年卒業(社会福祉1コース) 横浜市に入庁。入庁後は生活保護ケースワーカーを経験し、現在は児童相談所で児童に関する相談・援助を行っています。

日々の業務で様々な相談に対応する中で、時には自分自身も困難に直面し悩み迷うこともあります。そのような時には和泉短期大学で学んだことや先輩方から頂いたアドバイスをもとにして、また仲間と相談し色々な意見を交わしたりして、どうすべきか考え行動するようにしています。現在は幅広い年齢層の子どもと接し、年齢や成長・発達段階により表現の仕方は異なるものの、子どもは大人に対し自分の気持ちや思いを伝える力を十分持っているのを感じています。地域の方々の日々の関わりの中には沢山学ぶことがあり、物事を客観的に捉え多面的に考えるように心がけています。

社会の移り変わりや流れによって、福祉現場でのニーズや相談内容も変化していきます。社会福祉に携わる者として視野を広く持ち、人と人・地域のつながりを大切にしてこれからも歩んでいきたいと思います。

図書館から推薦図書を紹介

『おかあさんの目』あかね書房

作: あまきみこ
絵: くらいけん

学術情報ユニット 小池友子

保育者として、母として、女性として、是非一度は、手にしてほしい絵本です。おかあさんのひざに抱かれているとき、おかあさんの黒い瞳の中に「私」がいるのに気づく……なんと素晴らしい美しい瞬間でしょう。おかあさんの目を通して、優しい心、ふたりの絆が深まっていきます。「うつくしいものに会ったら、いっしょうけんめい見つめなさい。」素敵な言葉を子どもに伝えることのできる温かく、感動的な絵本をご一読ください。

おかあさんの目



私の好きな聖句

宗教部・教授 井狩 芳子

「地の塩、世の光 マタイによる福音書 5章13節～16節」

The Salt of the Earth, The Light of the World

30余年前の晩夏、私は、友人とともに、立山・黒部アルペンルートを徒歩で周遊した。富山県宇奈月温泉の奥、樺平駅に降り立ち白馬方向に向かう際、通らざるをえなかったのが、内部に全く電灯のないトンネルだった。昼間にも関わらず延々と続く闇。自分の足元すら何も見えない不安の中、五感を頼りにソロリソロリと歩いた緊張感は、今でも身体が憶えている。…とその先に、最初は小さく見えたトンネルの出口。足元が見えないので、決して走ることは出来なかったけれども、私達は一歩ずつ慎重に歩き続け、そしてトンネルを出た。山道の視界は決して広くはなかったけれど、細長い青空に木々の梢が涼やかにゆれていた。

実際に、真っ暗闇のトンネルを歩くという経験は、後にも先にもこの時だけであるが、心が闇にはまり込んでしまった時、私の身体はこの経験を思い出し、そして、私はこの聖句を呪文のように呟く。

子ども期や青年期・生活環境が大きく変化する時期・そして、価値観の変革を日々余儀なくされる現代社会の中、私達は様々な不安に苛まれる。そんなときに安心して委ねられるのは、身を挺して注がれる愛情と自分にとっての適切なモデル。私が考える本学の使命とは、幼子やその保護者の光となれるような、そのような保育者を育てることである。

私達は、今を生きる社会の一員として、自分らしさを生かした「地の塩、世の光」となって、この複雑な現代社会を導き導かれながら、互いに支え合って生きていきたいと切に思う。



2013年度『教育環境充実資金』募金のお礼とお願い



多くの皆様にご賛同頂いた寄付金を活用させていただき、学生の音楽環境を一層充実させるために、夏期休業期間に大教室を改修して、ミュージックラボラトリー（電子音楽教育システム）を開設致しました。

後期から「ミュージックラボラトリー特別講座」を開講しています。受講した学生からは「1対1の指導を受けられることができ、より理解しやすかった」「ピアノに比べてリズム・抑揚等、細かい部分の指導を受けられた」「ピアノよりミュージックラボラトリーの授業の方が楽しい」等の感想が寄せられています。

引き続き本学の教育の充実に必要な費用、施設拡充のため募金の協力をよろしくお願い申し上げます。

- ご寄付者数 34件〈2013年8月1日～2013年11月30日〉
- 寄付金額 325,000円
対象事業募金合計額 4,468,000円
- 募金対象事業 電子音楽教育システム（設置完了）
震災・災害対策
- 募金目標額 10,000,000円
- 期間 2013年5月～2014年3月
- 寄付金 1口5,000円
- 募金担当 経理・施設ユニット にお問い合わせください。



▲電子音楽教育システム (EML)

寄付者一覧(敬称略)

〈2013年8月1日～2013年11月30日〉

- | | |
|--------|--------|
| 井上 容子 | 関 公二子 |
| 内田 恵美子 | 曾根 真理子 |
| 太田 耕造 | 田口 喜久江 |
| 大塚 真光子 | 戸田 美穂 |
| 岡田 聡子 | 富田 幸子 |
| 荻原 英子 | 新田 恭平 |
| 小倉 敏子 | 長谷部 健一 |
| 小野 香保 | 平塚 豊 |
| 小原 美保子 | 船越 靖逸 |
| 川瀬 沙樹 | 古川 佳子 |
| 河野 遥奈 | 真壁 秀明 |
| 喜田 やよい | 森久保 和子 |
| 栗林 直樹 | |
| 後藤 奈美 | |
| 小林 泉 | |
| 小林 沙織 | |
| 小林 英夫 | |
| 佐藤 町子 | |
| 佐藤 繭美 | |
| 清水 正子 | |
| 杉本 美恵子 | |
| 杉山 佳子 | |

法人事務局

ご寄付をいただきました皆様方に心から感謝申し上げます。

2013年度の右記期間の募金につきまして寄付者ご芳名をまとめさせていただきました。なお、法人事務局が受理いたしました日付で処理しております。多少のずれが生じている方もあるかと存じますが何卒ご了承をお願いいたします。

加藤正春さんの退職に寄せて

事務局長 土橋 正文



加藤 正春さん

本学施設ユニット嘱託職員の加藤正春さんが2013年9月27日付で退職されました。加藤正春さんは、本学が相模原市に移転した当時に職員に採用後(1977年9月)32年間勤務され、2009年3月に退職されました。本学の施設設備の管財業務を一人で担われ、人格共に素晴らしい方であったため、私の事務局長就任時(2011年4月)に施設ユニットの嘱託職員をお願いいたしました。以来2年6ヶ月、通算34年間に亘り、本学の日常の施設設備の営繕業務、施設改修工事における協力会社との段取り等を手際よく丁寧にしていただき和泉短期大学の為に貢献していただきました。今年度の夏期休暇中の多くの工事が無事に完了することができたのは加藤正春さんの尽力の賜物です。改めましてその功績に感謝いたします。